

# あいち病害虫情報 最新情報

平成23年7月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除グループ

## 早い梅雨明け！盛夏到来

東海地方は7月8日頃に梅雨明けしました（平年値は7月20日）。既に本格的な夏が到来しています。向こう1か月も平年同様に晴れる日が多い見込みとなっています。ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、的確な防除を心がけましょう。暑さの厳しい時期ですので、農薬の散布に際しては日中を避け、朝夕の涼しく風の少ない時間帯を選んで作業するなど、健康管理にも留意しましょう。

## イネの病害虫

葉いもちが一部のほ場で確認されるようになりました。曇雨天が続いた場合、コシヒカリなどでは葉いもちから穂いもちへの移行が心配されます。いもち病の発生状況や防除薬剤については、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第3号」を参考にしてください。

セジロウンカは、平年に比べやや多い状況です。ほ場での発生状況に注意しましょう。トビイロウンカについては、現在のところ発生を確認していません。

## 斑点米カメムシ類に注意！！

斑点米の原因となるアカスジカスミカメなどのカスミカメ類が、畦畔のイネ科雑草を中心に平年より多く確認されています。また、予察灯における誘殺数も例年よりやや多くなっています。カメムシ類は水田周辺の畦畔や土手などに生息するイネ科雑草などで増殖するため、除草に努めましょう。しかし、出穂期間際の除草はカメムシ類を逆に水田へ追い込むことになるので控えてください。発生状況や防除薬剤については、本日発表の「平成23年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

## 果樹の病害虫

モモ灰星病は、発病果を見つけたら直ちにほ場から持ち出して適切に処理しましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、伝染源となる発病葉や発病果を除去して適切に処分するとともに、耐性菌の発生を避けるため同一系統薬剤の連用を避けて防除を行うよう心がけましょう。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数および誘殺ピーク時期は、おおむね平年並で推移しています。7月以降は果実に侵入する重要な時期になります。成虫の発生ピークから6日後頃が防除適期になりますので、フェロモントラップの誘殺状況を参考に適期防除を心がけましょう。また、コンフューザーを設置しているほ場で、7月以降に再度設置する予定がない場合、収穫期間中に効果が低減してナシヒメシンクイ等による被害が出る可能性が考えられます。今後の発生動向に十分注意し、適期防除を心がけましょう。

ブドウべと病の発生が多いほ場があります。曇雨天が続くと再び急激にまん延しますので、天気予報を参考に防除を徹底しましょう。

## ウンシュウミカンのチャノキイロアザミウマ

アメダス各地点におけるチャノキイロアザミウマの第4世代成虫の発生ピークは、東海市、名古屋市7月23日、岡崎市、愛西市、豊田市、蒲郡市7月26日、南知多町、伊良湖7月28日、豊橋市7月30日と予測されます。また、稲武では第3世代成虫の発生ピークが7月29日と予測されます。7月に入り気温の高い日が続き、成虫の発生ピークは、6月30日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」の予測よりも1～3日早くなっています。今回発表の発生ピーク予測日を目安にして、ほ場を観察し適期防除に努めましょう。ウンシュウミカン、ブドウ及びカキの防除薬剤については、「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参照してください。

## 果樹カメムシ類

予察灯及びフェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、少ない状況が続いています。

現在、チャバネアオカメムシはスギ・ヒノキ球果を餌として生育していますが、球果が餌として適さなくなると果樹園に飛来してきます。しかし、今年は越冬世代成虫が少なく、スギ・ヒノキ球果数も平年並以上に多いので、7月に果樹園へ大量飛来する可能性は低く、果樹カメムシ類を対象とした防除を7月に実施する必要はないでしょう。

## オオタバコガ

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並ですが、今後の気象条件次第で発生が増加する可能性があります。ほ場での発生状況に注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

## トマトの苗はタバココナジラミの寄生に注意！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが露地で活発に活動する時期です。トマト栽培が周年化している産地では、育苗時におけるTYLCVの感染防止が特に重要なので、タバココナジラミに効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）〉

〔気温〕	低い	: 20%	平年並	: 40%	高い	: 40%
〔降水量〕	少ない	: 20%	平年並	: 30%	多い	: 50%
〔日照時間〕	少ない	: 30%	平年並	: 40%	多い	: 30%

### ○農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止

○ 農薬を使用する前に、ラベルの内容をよく確認し、使用方法を守りましょう。

○ 農薬の飛散防止に努めましょう。

- ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
- ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
- ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
- ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

○ 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

- ・ 農薬は、「普通物」と「毒物」「劇物」を区別して、鍵の掛かる場所に保管しましょう。
- ・ 農薬散布の準備中も、畑やハウス、自動車などに安易に放置せず、適切に管理しましょう。

○ 暑い時期です、作業中に熱中症にならないよう注意しましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ  
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820